

STYLE

02

## 「一棟コンバージョンSTYLE」▶ 冷泉荘編

冷泉荘の一室で建築設計事務所「yHa architects」を営む建築家の平瀬有人さん・祐子さん。  
独特のコミュニティを持つ、一棟丸ごとスタイルのシゴトバの魅力を語っていただいた。

「yHa architects」平瀬有人さん 平瀬祐子さん

外に対して開かれている、  
人間関係が広がるという魅力。



個人の住宅から公共施設まで幅広い建築の設計に携わる「yHa architects」。現在は世界的に有名な「鍋島」の製造元である佐賀県の富久千代酒造の歴史的建造物の改修にも着手。

東京出身の平瀬ご夫妻が福岡に拠点を移し、冷泉荘にオフィスを構えたのは2011年のこと。博多駅への好アクセスの他、自分たちで空間をリノベーションできるシステムも気に入ったポイントだったという。

「以前オフィスを構えていた神奈川でも、期間限定ではありましたが、建築家やアーティストが共同で古い建物を借りて活動拠点にするというイベントがあり、興味深く注目していました。冷泉荘にはそれを彷彿させる雰囲気とエネルギーがあると思います」

もちろんリノベーションはお手の物。元・着物屋だった和の空間をスケルトン状態にし、毎年少しずつ手を加えながら現在の白で



統一されたシンプルな空間に仕上げた。「躯体に断熱材を入れたので、冬の寒さも気になりません。それに何よりも自分たちで手を加えているから愛着もひとしお」と祐子さん。「このオフィスを見たら、私たちの建築への考え方、建物への想いがよく分かっていただける。そんな空間になったと思います」

しかも、このオフィスになって出入りする人の数はぐんとアップ。気軽に遊びに来るお仲間が増えたのはもちろん、冷泉荘自体を見学する観光客がふらりとオフィスを訪れることも。「時間があれば私たち自身で室内を案内しますよ」とおふたり。思いがけない来客との交流——実はこの変化が、仕事にも好影響を与えているという。

「私たちの仕事はお施主様に認めてもらって初めて成り立つもの。コミュニケーション能力がとても大事なんです。だから、ここに遊びに来るお客さんとの会話はいいトレーニング

グ。何気ない会話の中から思いがけないアイデアが生まれることもあるんですよ」

そんな祐子さんの話を受けて有人さんもこう続ける。「実は東京でも東日本大震災以降、バルコニーやラウンジといった共有スペースのあるオフィスビルの人気が高まっているようです。というのも、外に開かれた共有スペースでのコミュニケーションが人間関係を広げ、アイデアを生むきっかけになっているからなんです」

まさに、冷泉荘の魅力のひとつが外に対して人間関係が開かれている場であること。きっとそれは、これからのオフィスづくりに欠かせない先駆的な要素。そして、「建物はそれ自体にまちの歴史や住んできた人たちの記憶を持っている」と平瀬さんは言う。だとしたら、この冷泉荘の記憶は、様々なシゴトバとともにますます賑やかで色鮮やかなものとなるに違いないと思うのだ。

## 「1棟コンバージョンSTYLE」

物件名 冷泉荘

こんな方におすすめ!

外部の人とも柔軟にふれあい、  
人間力、仕事力を高める人。

物件の特徴

**天神、博多駅に好アクセスな立地**

**山笠文化が息づく博多エリア**

**観光客や見学者の来訪あり**

**1棟まるごと再生物件**

**情報発信の場としても最適**

冷泉荘の物件詳細はP6・7へ!

